

②枕崎に七夕を復活させる会

枕崎に活気を！心をつなぐ七夕飾り

想いは連鎖する

8月上旬、たくさんの七夕飾りが枕崎を彩りました。「昔ながらの七夕飾りを復活させることで、多くの市民が協力し合い、未来の夢を短冊に書き、活気みなぎる夏の風物詩の復活となれば」と話すのは「枕崎に七夕を復活させる会」の板敷浩美代表です。

昨年からは始まったこの活動では、笹竹の切り出しから配布後片付けまで、すべてこの活動に共感する市民がボランティアで行っています。今年

昨年を大きく上回る200本以上の笹竹を各家庭や店舗に配布することができました。また、通り会の会合に出向き趣旨を理解してもらうなどした結果、地道な活動に共感する人たちも増えていきました。

「七夕でつながった市民の心が、さらなるまちづくり運動を盛り上げるきっかけとなれば」という想いを胸に、「枕崎に七夕を復活させる会」は今後『枕崎七夕の会』として継続した活動をしていきます。



▲8月6日、夕方5時過ぎ駅前通りに自然とみんなが集まりはじめ七夕飾りを設置する。1時間ほどで通りには鮮やかな七夕飾りがズラリと並んだ。



▲トラック数台に分かれて笹竹を配布した。保育園に持っていくと園児が興味深そうに集まってきた。みんなどんな願い事をしたのかな？

枕崎の明るい未来へ
さあ立ち上がろう

現実を知ることから

「枕崎の現実を知ってもらい、市民一丸となり、『共生協働』のまちづくりを進めていこう」ということで、3か月にわたり特集してきた『枕崎に未来はあるか』。

第1回では、激しく進む市中心市街地の空洞化を取り上げ、その打開策としてコンパクトシティ構想の概要を説明しました。現在、駅通り商店街の賑わいを取り戻す方策を最優先事項と位置づけ、駅前アーストリート形成や空き家バンク事業、交通弱者等の交通手段の確保などに向け取り組んでいます。

第2回では、少子高齢化による限界集落増加の問題を取り上げ、田布川集落の『集落営農』の取り組みなどを紹介しました。また、さらなる少子高齢化社会を見据えて『自立自興』の精神を呼び起こし、地域活動の再生・活性化を目指す『職員地域担当制』の概要を説明しました。地域担当制については、モデル地区

による取り組みが今月から始まります。

一丸となり明るい未来へ

枕崎は、今特集で取り上げた中心市街地の空洞化や少子高齢化による限界集落の問題など危機的状況にあり、今のままでは衰退の道をたどる一方です。

今こそ市民一人ひとりが住んでいる地域のために、さらには枕崎のためにできることを考え、行動するときです。そうすることで、一丸となった取り組みが生まれ、未来を明るくしていくのではないのでしょうか。

枕崎の未来は

私たちが創り上げるもの

ずっと住んでいたい

そう心から思えるまちに

していこう

未来の子どもたちのために



妙見保育園

INTERVIEW



豊留君子さん

枕崎では旧暦に七夕を飾るということを知りませんでした。昔の七夕は賑やかだったということを知りたくなかったので、若い人たちに伝えたい。そして、だれもが楽しめる行事である七夕を復活させたいとの想いでこの会に参加しました。これからも活動を継続していきたいです。この活動をおととして、人と人とのつながり、人の温かみを感じることができました。



浜村春吾さん

サザンヒルズで働いています。駅前通りに七夕飾りを飾ると聞き、この地域のために何かしてみようと思い参加しました。今までこのような活動をしたことがありませんでしたが、今回参加したことで、たくさんの人とのつながりができました。七夕は市民だれでも気軽に参加できる行事です。これからも継続していき、同時に関連したイベントもできればと思っています。



吉井雅子さん(48歳)
ここに来て6年目、枕崎のためにお手伝いできることがあればなんでもしたい。



立石慶一さん(21歳)
故郷がここでもよかった、焼酎もっまいし！



中敷領近城くん(12歳)
遊ぶところがいっぱい、カッオも大好き。



猪谷秀作さん(27歳)
ほのぼのとした雰囲気、枕崎が大好き。すんくじら最高！

